



〒651-0086 神戸市中央区磯上通6-1-11(兵庫県医師会館7階)

発行：一般社団法人兵庫県精神科病院協会 TEL:078-230-1128 FAX:078-230-1138

卷頭言

平成28年度総会を終えて

**兵庫県精神科病院協会
会長 長尾 卓夫
(高岡病院 理事長・院長)**

このたび役員改選に当たり、役員全員が前期に引き続いで留任が認められました。また2年間の会長職をさせていただくことになりましたのでよろしくお願ひいたします。

最近は想定外という言葉が使われる機会があまりにも多くなったような気がします。東日本大震災における30mにも及ぶ津波、それに伴っての福島原発の全電源喪失によるメルトダウン、そして今回の熊本地震の群発など人類歴史上ではこれまで起こっていても忘れ去られていることかもしれません、数十億年にわたる地球の歴史から見ればこれら以上のことが起こっても不思議でない人知を超えたものがまだあると思われます。我々も阪神淡路大震災を経験しましたが、同じ地震と言ってもすべて様相が異なっています。こうした自然災害だけでなく、人間の欲望による世界各地での人種、宗教の絡んだ紛争も終結の兆しも見えない状況で混乱を引き起こしています。

我が国の状況も周辺国との問題が大きくなってきており、経済財政問題も消費税引き上げの再延長が決められ、財源問題、財政の健全化も経済の動向とともに不透明な状況です。精神科医療についても、人口減少、高齢化という社会問題の影響はこれからさらに顕著になってくるものと思われます。診療報酬においても地域移行機能強化病棟が新設され、長期在院高齢者の処遇も含めて、地域移行、地域定着の社会資源の充実も含め、各精神科病院にとっての将来を展望していくことが求められる大きな転換期であることは間違いないと思います

平成28年度兵庫県精神科病院協会 役員一覧

会長 長尾 卓夫(高岡病院 理事長・院長)

副会長 森村 安史(大村病院・仁明会病院 理事長)

深井 光浩(赤穂仁泉病院 院長)

理事 内海 浩彦(有馬病院 副理事長)

高野 守秀(神戸白鷺病院 理事長・院長)

古橋 淳夫(揖保川病院 理事長・院長)

細見 和代(湊川病院 副理事長)

宮軒 將(新生病院 理事長・院長)

森 隆志(東加古川病院 理事長・院長)

山本 英雄(播磨大塩病院 理事長・院長)

監事 石井 敏樹(香良病院 理事長・院長)

山西 行徳(宝塚三田病院 理事長・院長)

(理事・監事は50音順、敬称略)

(任期は平成30年度総会まで)



熊本地震における「ひょうごDPAT」活動について

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課

精神障害福祉班 長岡 美佐

兵庫県では、平成26年12月に兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」を全国に先駆けて設立し、平成26年度から体制整備事業を進めてきました。兵庫県精神科病院協会と協定を締結し、34病院全てがDPAT登録病院として参加いただいております。

平成28年4月14日に発生した熊本地震では、16日の本震直後午前4時50分にDPAT事務局(厚労省委託)より出動要請があり、設立後初めて「ひょうごDPAT」を派遣することとなりました。厚労省にDPAT先遣隊として登録していた障害福祉課と兵庫県こころのケアセンターをはじめ、県立光風病院、三田西病院の協力により、4/16～5/27の間に計8チームを熊本県に派遣しました。

本震直後に熊本入りした先遣隊は、熊本県庁に設置された県災害対策本部のDPAT調整本部に配置され、被災した精神科病院患者の搬送業務や、厚労省、熊本県障害支援課、熊本県精神科病院協会、DMAT本部等関係団体との連携や、活動中の各DPAT隊の状況把握及び配置調整といった本部機能を担いました。精神科7病院、595名が搬送を余儀なくされ、熊本県内で対応できなかった274名については、九州各県の精神科病院協会の多大な協力があり、鹿児島、福岡、佐賀、宮崎県へ搬送することができました。

先遣隊以後は、活動拠点本部において、最大26隊配置された現場DPAT隊の直接指揮や、熊本市内の避難所巡回、阪神・淡路大震災を経験した立場から各被災地の状況把握と活動全体に対するコンサルテーション等、DPAT活動の中枢を担いました。また、ニーズの高かった子どもに対しては、児童精神科医を含む隊を派遣し、熊本市内全区における母子保健関係者や保育所職員へ向け、こころのケア研修等を行いました。今後の被災地支援については、兵庫県こころのケアセンターが熊本県及び熊本市を中長期的に支援する予定です。

今回のDPAT派遣を通して、平時の体制整備の重要性を改めて痛感しました。特に病院機能が損失した場合の搬送業務については、精神科病院協会等関係団体との連携が不可欠です。兵庫県においてもDPAT研修等を通じ、行政と医療機関との一層の連携強化を図りたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

DPATに参加して

大安 努(三田西病院 准看護師・作業療法士)

この度、兵庫DPATの一員として熊本へ行ってきました。私達はDPATとしては第二陣となる部隊で5月22日～29日までの活動となりました。兵庫DPATは2部隊で現地入りし、一方のチームは避難所を回る活動で私達のチームは活動拠点本部に配属となりました。



DPAT調整本部(熊本県庁災害対策本部内)の様子



いざ、活動が始まり熊本県立こころの医療センターに設置された活動拠点本部へ向かうことになりました。私達の宿泊場所は福岡県筑後市にあるホテルで、活動拠点本部へいくには交通事情なども考慮すると2時間程かかりました。他の県のDPATも同様または、それ以上かけて活動場所へ通っている状況でした。

活動拠点本部で活動していたのは、岡山DPATと兵庫DPATでした。活動拠点本部の主な活動内容は、各県のDPATを熊本市の各区ならびに近隣の市や町へ派遣し、その活動が円滑に行えるようにサポートするものでした。活動する中で感じた事のひとつに現場(避難所を回っているDPAT)と活動拠点本部との温度差がありました。

現場では様々なニーズがあり、その対応などについて活動拠点本部へ連絡が入ってくるのですが、DPATという組織としての活動を指示した場合でも、それ以外のニーズにも対応したい・対応したという声を現場からよく聞きました。その要因として考えられるものには2つの要素があったように思います。

1つは現場で避難されている方を目の当たりにすることで、援助したい・しなくてはという思いにより自然に体が反応してしまったのではないかでしょうか。

2つ目はDPATという組織での活動内容・目的への認識不足があったように感じました。

そこで、前述した温度差を埋めるために当院の藤田院長を中心とし各県のDPATに活動前にオリエンテーションを行うこととなりました。まず、オリエンテーションをするにあたり活動内容・目的を見直し、各状況・場面でどのような対応や援助していくべきなどを明確化し、それを書面化していきました。そしてオリエンテーション時、説明と書面を配布していました。その結果、現場と活動拠点本部との温度差は徐々に緩和されていきました。

また、途中から各県のDPATより1名を活動拠点本部に入つてもらう形をとったのですが、そのことで現場も活動拠点本部の活動内容の理解につながり現場・活動拠点本部の間に一体感が出てきたように感じました。

今回、DPATに参加できたことで組織として活動するには、組織全体を統制できるシステムやそれをいかに共有できるかが大切であると実感できました。またこれらを、より明確・確実なものにしていくことが安定した継続的な援助へ繋がるのではないかでしょうか。

最後になりましたが、熊本の1日も早い復興と、そのための継続的な援助を願っております。

平成28年4月14日に発生した平成28年熊本地震により、甚大な被害がもたらされております。被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

兵庫県精神科病院協会は、日本精神科病院協会が実施している「熊本地震の被災会員病院に対する義援金の募集」並びに兵庫県が実施している「平成28年度熊本地震災害兵庫県義援金」に義援金を送りました。

一日も早い復興を願っております。



田中班による避難所巡回



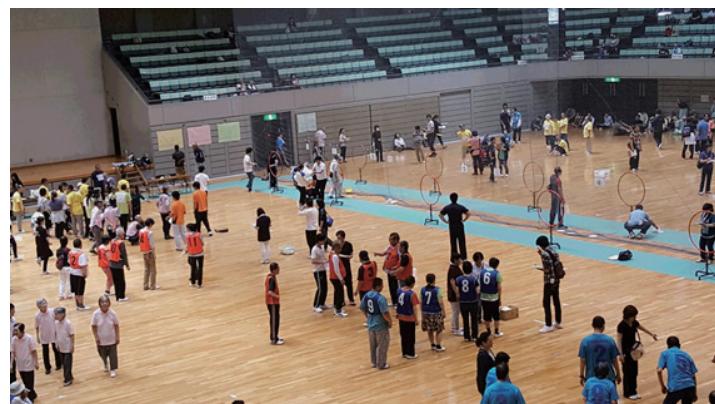
フライングディスク大会開催

平成28年6月6日(月)に「第11回 兵精協親善フライングディスク大会」が行われました。8年ぶりに会場が障害者スポーツ交流館から姫路中央体育館に戻り25施設570名の方が参加しました。

フライングディスク大会は「アキュラシー」という競技でスローイングラインから5m離れた的にディスクを通して得点を競うものです。

「フライングディスク大会」も10回を超え各施設にも大会としての認知度も確立され、年々参加者も増え参加者の技術の向上で各試合熱戦が繰り広げられました。また会場が変更となったことで車椅子で参加される選手もおられ楽しんでいました。

柳田真史(有馬病院)



【個人の部】

	施 設 名
優 勝	三田西病院B
準優勝	播磨サナトリウムC
第三位	姫路北病院A
第四位	三田西病院A

【団体の部】

	施 設 名
優 勝	東加古川病院A
準優勝	高岡病院A
第三位	宝塚三田病院A
第四位	播磨サナトリウムA

平成28年度 兵庫県精神科病院協会

活動助成金募集のご案内

兵庫県民の精神保健福祉および精神医療の向上を目指し活動する団体に対して、活動経費の一部を助成します。

県民の精神保健福祉向上または地域社会の精神保健福祉が向上する事業・活動に対し1団体30万円を上限に助成します。応募の受け付けは平成28年7月1日～7月30日です。

詳細につきましては兵庫県精神科病院協会のホームページ(<http://www.hyoseikyo.jp/>)をご覧ください。